

昭和54年度定期総会開かる

山下善平元教授が記念講演

風薫る五月二十七日(日)午前十一時三十分より、母校大講義室で昭和五十四年度定期総会が開かれた。恩師・滝澤、赤木、熊沢、梅林の四先生をはじめ、約五十名の会員諸氏に出席していただいた。

辻静夫氏(大19回)の司会により総会が始まり、議長に岡田久司氏(大3回)を、議事録記者に田中実氏(大20回)を選出した。岡田久司会長の挨拶の後、六議題の審議に入った。

(1)昭和五十三年度事業報告(小山幹事)、(2)昭和五十四年度事業計画(古市幹事)及び会計監査報告(辻村監事)、(3)役員改選(副会長、理事及び監事を選出後、新会長 岡田芳次郎氏(専一)、再任)の挨拶があった。引きつづき、評議員及び幹事を決定した。(4)昭和五十四年度事業計画(小山幹事)、(5)昭和五十四年度事業報告(小山幹事)はいずれも別表の様承認された。(6)基金については、下記の様に、(イ)基金経過報告(嶋林庶務幹事)、(ロ)基金状況(嶋田会計幹事)、(ハ)基金運用規程(岡田委員長)の三件について、報告審議がなされいずれも承認された。なお、基金運用委員会への希望として、三翠化学会及び農芸化学科のシンボルカラー、シンボルマークを設定したらどうか、そのために広く公募したらどうかとの発言があり、積極的に検討、実現化に努力するとの見解が出された。

「蛍の光」に深い感銘

総会後愉快にビールパーティ

総会終了後、山下善平先生(三重大学農学部昆虫学研究室)より、母校大講義室で、元三翠化学会理事・農学部昆虫学研究室、現在三重県自然科学研究会(会長)に、「蛍の光」と題する講演をしていただいた。先生の自然を愛し、自然とわいわい昆虫との対話を念願され、情熱をこめて研究された蛍の発光に関する成果のエキスを、またとみられない素晴らしい、そして貴重なカラー・スライドを駆使され、自然の妙理を門外漢の私共にもわかり易く、諷刺とほほ笑みと説明いただき、出席者一同非常に深い感銘を受けた。一時閑余の講演では飽きたらず、先生への質問の大洪水がおこり、先生が嬉しい悲鳴をあげていた。

講演終了後、二時より会場を三翠化学会へを移し、嶋林庶務幹事(大16回)の司会のもと、会長挨拶、赤木先生の首領による乾杯の後、ビールパーティに入った。

三翠化学会では初めての試みであったホステス嬢の参加もあって、懇親の宴は大いにあつた。また、あつたという間の二時間、名残りを惜しむつも、緑したたる東海の「」を肩を組みながら一同大合唱後、再会を約して散会した。まことに有意義な一日であった。

三翠化学会

(題字は稲川先生)

第11号

昭和54年9月1日発行

三翠化学会

津市上浜町1515

三重大学農芸化学科内

電話/津(0592)32-1211

振替/名古屋59345

印刷/株式会社ある

- 副会長 嶋田協(専三)
- 福田映(大1)
- 理事 渡辺和己(専一)、
- 中川潔彦(専二)、田中秀志(大3)、渋谷明(大4)、高橋孝雄(大6)、今井正之(大11)、杉崎護(大16)、田中実(大20)、中世古幸信(大25)、長瀬和雄(専一)、東支部長、別府宏(専一)、東海支部長、西村謙二(専一)、三重県庁支部長、倉田三郎(専一)、三重教員支部長)
- 監事 若林生(専一)、辻村恒(大3)、
- 幹事 嶋林幸英(専一)、古市幸生(大13)、小畑仁(大15)、小山司朗(大20)、浅井和夫(大27)。
- 評議員 今西勝(専一)、佐々木敏雄(専二)、奥田孝夫(専三)、岡本正雄(大1)、深尾治郎(大2)、岡田久司(大3)、裁本義雄(大4)、水谷栄三(大5)、豊田治男(大6)、渥美道正(大7)、藤本公三(大8)、今井滋(大9)、伊藤道子(大10)、林真栄(大11)、今西隆隆(大12)、岡田勝宏(大13)、館行生(大14)、庭田勝弘(大15)、池山洋久(大16)、藤井靖史(大17)、内藤茂三(大18)、辻静夫(大19)、坪井一夫(大20)、田中忠(大21)、古川公明(大22)、谷田孝雄(大23)、加藤伊陽子(大24)、田中完爾(大25)、吉岡孝一(大26)、中北隆也(大27)、駒田洋(大学院)

就任のご挨拶

岡田 芳次郎

去る五月二十七日、津市母校の大講義室において開催された昭和五十四年度総会において、再度会長に推挙されました。

願ひますれば、三翠化学会が創立されたのは、今を去る六年前、前会長嶋林教授のなみなみならぬ御尽力と、関係各位の献身的な御力添えと、会員諸兄の御協力により、現在に到ったもので御座います。身素より浅学非才本会会長の重責を再度にわたり御引受けすることは、誠に心苦しく存じて居る次第で御座いますが、一旦御引受け致しましたら、皆様の御支援と御協力により、この重責を完遂致したい所存で御座いますので、何卒よろしく御願ひ申し上げます。

さて、既に御案内申し上げましたとおり、本年三月には学部卒業生は、才二十七回を迎え、専門学校三回と併せて三十周年を向え、卒業生の約九〇〇名に達しました。誠に意義ある年にあたり、三翠化学会の組織強化の一助として、昨年の総会において「三十周年記念」募金事業が決定せられ、現在募金運動が昭和五十四年十二月末日を目途に続行中であり、既に目標額三百万円に対し、既に目標額に存じます。目標達成まで、あと息を切らさず御願ひ申し上げます。

あと、息を切らさず御願ひ申し上げます。御支援を伏してお願ひ申し上げます。

次に支部組織の強化につきま

昭和53年度三翠化学会事業報告

昭和53年 4月2日	東海支部設立、第一回総会
5月1日	会報第8号発行
5月15日	役員、評議員会(第1回)
5月21日	総会(名古屋市、全通名古屋会館)
7月17日	役員、評議員会(第2回)
8月31日	会報第9号発行
9月29日	基金募金実行委員会(第1回)
12月12日	役員、評議員会(第3回)及び基金募金実行委員会(第2回)
昭和54年 3月15日	役員評議員会(第4回)
3月31日	会報第10号発行

昭和53年度三翠化学会決算報告

項目	金額(円)
収入の部	
前年度繰越	89,160
会費	749,955
雑収入(含利息)	43,000
計	882,115
支出の部	
会報印刷費(8, 9, 10号)	330,000
郵送通信費	179,230
会議費	79,468
事務費	146,360
基金事業立替	46,800
こうより補助	30,000
計	811,858
差引残高(次年度繰越)	70,257

昭和54年度三翠化学会事業計画

昭和54年 4月20日	役員会(第1回)
5月21日	役員会(第2回)、評議員会(第1回)及び基金運用委員会(第1回)
7月	総会(津市、三重大学農学部)
7月	役員会(第3回)、評議員会(第2回)
7月	基金運用委員会(第2回)
7月	会報第11号発行
12月	役員会(第4回)、評議員会(第3回)
12月	基金運用委員会(第3回)
昭和55年 3月	役員会(第5回)、評議員会(第4回)
3月	基金運用委員会(第4回)
3月	会報第12号発行

昭和54年度三翠化学会予算

項目	金額(円)
収入の部	
前年度繰越	70,257
会費	650,000
雑収入(含利息)	51,800
計	772,057
支出の部	
会報印刷費(11, 12号)	250,000
郵送通信費	200,000
会議費	100,000
事務費	100,000
支部設立補助	20,000
予備費	102,057
計	772,057

を向え、卒業生の約九〇〇名に達しました。誠に意義ある年にあたり、三翠化学会の組織強化の一助として、昨年の総会において「三十周年記念」募金事業が決定せられ、現在募金運動が昭和五十四年十二月末日を目途に続行中であり、既に目標額三百万円に対し、既に目標額に存じます。目標達成まで、あと息を切らさず御願ひ申し上げます。

あと、息を切らさず御願ひ申し上げます。御支援を伏してお願ひ申し上げます。

次に支部組織の強化につきま

三翠化学会基金について

総会第6議題に関連して

(イ)募金事業経過報告

一、昭和五十三年度総会(五三・五二)で「基金制度」が認められ、三〇〇万円の募金に着手することとなった。

二、五三・七・一七 役員、評議員会を開催し、基金募金委員会(役員、評議員、支部長及び会長指名による若干名から構成)を組織するとともに、実行委員を選出した。

三、五三・八・三一 三翠化学会九号で総会報告とともに基金制度の発足、募金の着手を全会員に通知連絡した。

四、五三・九・二九 実行委員会開催。基金募金の具体的方法を検討した。その結果、(a)卒業年次別に、個人当りとクラス当りの募金目標標準額を設定、(b)各卒業年次より代表者(基金募金委員)一名を選び、目標額達成のための協力、募金の具体的展開法について依頼することとなった。(c)事務、会員各位の御理解と御協力を御願ひ申し上げます。

既に、関東支部、東海支部、三重県庁支部、三重県教職員支部と四支部が設置され、夫々活発な活動が行われて居りますが、未結成の地域におかれても、結成の御尽力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、稲川先生、長瀬先生の御冥福をお祈り致し、全国各地において御活躍の会員各位の御健康と益々の御発展を祈念し、未筆ながら、三翠化学会運営のため、日夜御心労を煩わして居る大学当局の嶋林先生を始め諸先生の御苦勞に対し、深甚の謝意を表します。

甚だ簡単に御座いますが、これをもちまして、会長就任の御挨拶と致します。

務処理上、会計幹事(嶋田、今井(滋)、古市)庶務幹事(嶋林、今井(正)、田中)それぞれ三名を選んだ。十月一日、依頼状発送、つづいて十一月十一日、基金募金の具体的方法と募金の推進方を重ねて依頼した。

五、五三・十二・十二 役員、評議員、基金募金委員会を開き、基金運用委員会について討論した。その結果、「五四四年五月迄は暫定的に基金募金委員会が兼ねる」事となった。

六、五四・三・一五 役員、評議員会、再度基金運用委員会につき白熱討論の後、次の様な結論を得た。「五四四年二月三十一日迄は、基金募金委員が暫定的に基金運用委員会を兼ねる。募金事業終了の時点即ち五五年一月一日から、三翠化学会基金運用委員会にとり正式な基金運用委員会が発足する。しかし、運用委員会の規程については、昭和五十四年度総会に提案討議する。」

七、五四・四・一 三翠化学会一〇号で基金基金に関する中間報告等を掲載。

なお、総会後六月と十一月を重点的な募金月間として積極的に運動する。

追記 五四・六・二五 三翠化学会役員会で理事の業務分担が決定された。基金担当には、中川(潔)、田中(秀)、今井(正)が選ばれた。これを受けて、六月二十九日基金担当理事に加えて庶務幹事、会計幹事出席のもと基金募金の推進方について協議した。

(ロ)募金中間報告

一、五四・一・一七現在 約一七分は四面に記載)

三三万円 (二八七名分)

二、五四・五・二四現在 約一七五万円 (三九〇名分)

追記 五四・八・七現在 約一九三万円 (約四〇〇名分)

(ハ)三翠化学会基金運用規程

一、三翠化学会記念事業基金の運用のために基金運用委員会(以下委員会と云ふ)を置く。

二、委員会の組織及び運営は次の通りとする。

(一)基金の運用は委員会にばかり決定し、これを総会に報告する。但し基金運用に関する重要事項については総会に付議する。

(二)委員長は三翠化学会会長が当り、委員は委員長が委嘱する。委員会には庶務及び会計担当委員並びに監事(各若干名)を置く。

(三)委員会は必要に応じ委員長が招集する。

三、委員会は記念事業に関する事項の審議及び基金の運用に当る。

記念事業とは次に掲げる事項とする。

(一)三翠化学会の組織強化のための援助

(二)農芸化学科学生への記念品の贈呈など

(三)その他三翠化学会に関する諸事業への補助

この規程は昭和五十四年五月二七日より施行する。

○出費多端の折柄恐縮に存じますが、基金募金の件よろしくご協力いただきます様お願ひ申し上げます。また、基金の運用に関しましては、ご意見をお聞かせ願ひ申し上げます。

(署名者氏名 54・1・8・8・17分は四面に記載)

名古屋地区では、午後三時と
もなると、トボン・ボン・ボン
と時計が三つ、母さんおやつを
出しました。トトトトトトトト
のコーミシャルソングがラジ
オのスピーカーから流れて来ま
すが、毎日くしくしくラジオ
を聞いています。たまには、
こんな歌が聞こえて来ますよ：
「食はずきたママ、ピオジ
アス、飲みすぎたママ、ピオジ
アス三銃：」
この軽やかな音楽こそ、そう
です。これが、天野製菓唯一の
コーミシャルソングなのでありま
す。

天野製菓は、天野グループ九
社の中の一つですが、資本金か
ら見ても社員数から見てもケ
ーの柱となっており、
「健康は胃腸から」との発想
を出発点として、昭和二十二年
日本薬局方アスターゼの製造
を開始しました。以来、研究
開発、生産、販売とたゆまぬ努
力を続け、酵素剤製造のトップ
メーカーとして業界において独
自の地位を占めるようになりま
した。

天野製菓株式会社

職場紹介

コーミ株式会社

私は、愛知県名古屋市に本
社を置き、東京、大阪、金沢に
営業所を置いています。犬山市
桑田と豊橋市三川町に工場が
あり、犬山工場ではソースを生
産し、豊橋工場ではトマトケ
チャップ、缶詰等を作っています。
私の勤務する犬山工場は、小牧
市と犬山市の境の工業団地の
中に位置しています。この工業
団地は、木曾川の良質な水を背
景として、多くの食品工場が立
ち並び、その内の一社として
コーミ犬山工場があります。ソ
ースについて紹介させてもらい
ますと、広い意味で、ウスター
ソース、果実ソース、ケチャッ
プソース、焼肉のタレ等があ
りますが、当犬山工場では、一
般にソースと呼ばれているウ
スターソース、果実ソース(別
名とんかつソース)を生産してい
ます。ウスターソースという
普通聞き慣れない名前ですが、
私たちがよく使う、バルブ質の

酵素剤は、医薬用、診断用、
食品工業などに利用されてお
り、そのうち医薬用として、消
化酵素剤は、国内の大手の製菓
会社へ納入され、各メーカー独
自の調剤ののち、胃腸薬・消化
薬となりブランド(商品名)が
つけられ発売されます。

また、消炎作用を持つ消炎酵
素剤や、臨床医学に新しい分野
を開拓する診断用酵素剤など、
その用途は広く、その応用開発
も着々と進められています。

食品用酵素剤についても、医
薬用酵素剤製造で培われた技術
力を生かし、高い品質の酵素剤

として、みそ、しょうゆ、清酒、
アルコール、ブドウ糖、調味料、
製菓、製パンなどの製造に利用
され、高い評価を得ています。

「天野製菓は、酵素剤のトップ
メーカーとして、責任を自覚し、
発酵工業を通じて人類の幸福に
貢献することを願っています。」
卒業生では、坂部君(十八回
生、生化学)がスケールアップ、
高見君(二十二回生、農産)が
試験、木村君(二十三回生、醸
造)が培養、私が医薬と、各分
野で、全員研究に励んでおりま
す。この他、本社(名古屋)に
酒井君(十六回生、食品)がお
り、彼は、青年重役会(社員経
営参画機関)の会長としてもが
んばっております。以上、卒業
生の紹介をかねがら中研を中
心として、会社の概要をお話し
してまいりましたが、どの業界
でも、そうでしょうが、医薬品
業界も競争が激しく、最近、一
般大衆にも報道されています。様
に、薬事法の改正等、効き目よ
りも、まず安全性が問われる時
代になり、新薬一品目を開発す
るには最低十億円もの費用が必
要になります。

(十五回生 齋藤 松水)

後者の方法を採用しています。
又研究室においては、開発、品
質管理等が行なわれています。
大量生産の行なわれる企業にお
いては、原料、製品の品質管理、
維持ということは大変重要な事
に思われます。ソースにおいて
は、原料、製品をピッキングア
ップして、糖度、酸度、塩度、色度、
粘度、可溶性固形分等の検査を
しています。さらに近年厳しく
なった、排水処理、煤煙につ
いても、チェック管理していま
す。ここでは、大学で学んだ知
識や実験方法などが役に立っ
ていて、そこに実が付き点が
違っています。

又、近年、連続して卒業生が
入社しています。みんな、犬山
工場、豊橋工場と勤務地は違っ
ても、現場技術者となるべく頑
ばっています。先輩の卒業生も
多く、公私に渡って指導助言を
得られ、心強さと共に、厳しさ
や責任感が強く感じられる会社
です。(大22回 清原建次)

大学時代の思い出

大20回卒 永田哲英

「大学時代の思い出は何です
か」と問われた時、人により様
々な答が返ってくると思います。
私の場合は、ランニングと熊沢
先生の言葉です。卒業間近にな
って、先生から「社会に出たら、
黙って十年やってみる。」と、言
われました。大学を出てから五
年が過ぎようとしています。諸
君の重みを痛感しています。また、
この言葉の底に流れるものと、
ランニングの真の味との間には
共通するものがあるように思わ
れます。

そこで、ランニングに興味を
持つに至った過程を書いてみた
いと思えます。

最初に、二人の先輩の顔が思
い出されます。そのうち一人の
先輩は、当時卓球部の主将で卓
球も強ければ、ランニングでも
優れた力の持ち主でした。一度
でいいからランニングで勝って
みたいと思ひ、合宿での朝のト
レーニングで挑戦したのですが、
第五区は登りでカーブが非常
に多い区間であるため、常に直
線コースを狙って走る方が得策
です。しかし、これをやると交
通事故の危険がありますので、
伴走者に先にカーブの向うから
車が来るかどうか確認してもら
いました。

走っている人間の視野は、前
進しようとする意志のために、
または、一つの所を見ているこ
とが多いので非常に狭くなっ
ています。あとから近づくと、
息遣いや足音で先行者は知るわ
けです。したがって、先行者と
の間隔をなるべくとって、一気
に抜き去るのです。こうすれば、
視野の狭さに加えて、気配を感
じとりくいで先行者は追いつ
かれたと気づくのが遅れるわ
けです。これだけでも、抜く側
にとっては有利なのです。

さて、戦績は、二回の区間賞

研究室紹介

農産製造学研究室

は、その人の記録を破って区間
賞を獲得しました。そのためか、
手元にはたった一枚の賞状が残
っているだけです。賞状という
と、印刷したものが多いです
が、この賞状は、横井さんとい
う先輩が毛筆で書かれたもので
す。この点でも、たいへん良い
思い出だと思っています。

この時点で、走ることが好き
だという理由は、人よりも速く
走れるという次元の低いもので
した。走り方にしても、スター
トした時点で自分の設定した
ペースを最後まで押し通すとい
った、力まかせの強引なもので
した。

走ることの本当の面白さを知
ったのは、社会に出てから、体
を鍛える目的で誰と競うことな
く、ひとりで走っていた時にわ
かったような気がします。この
事は、現在の自分の拠り所であ
ると確信しています。自分の拠
り所になるようなものの方が
りを、与えてくれた学生時代の
経験は、私にとって、非常に有
意義なものです。



農産製造学教室の卒論生と新4年生 (昭和54年3月)

農産製造学研究室は三重高等
農林学校時代の名残りをわずか
ではあるが留めている古い研究
室であり、これまで多くの優秀
な人材を社会へ送り出した室で
あります。この研究室の名は
古き者には懐しく響き、当世の
学生には古くさく感じる名でも
ある。学問の著しい進歩と細分
化により看板と中身とが、ふさ
わしくなくなってきたのである。
研究室の初代の教授は御承知
の如く一昨年他界された長瀬重
蔵先生であります。昭和三十七
年その後を引継いで奈良省三先
生が教授となられ、山口敏三先
生、前田謙先生の御三人で農産
製造学研究室を守り立ててこられ
ました。昭和四十四年前田先生
は林女子短大の方へ移られ、筆
者は昭和四十五年よりこちらへ
お世話になって現在に至ってい
る次第であります。

最近の各先生方の近況を申し
ますと、奈良先生は現在大学の
評議員として、又学科の長老と
して積極的に活躍されており又
精力的に研究なさっており、最
あります。

現在の研究室のテーマは、奈
良先生と筆者はデンプンを主体
とした物性の研究、特にデンプ
ンの結晶構造に関連する研究を
行い又食品照射での食品貯蔵と
の関連より芳香族ハロゲン化物
の放射線増感に関する研究を、
山口先生は紅茶あるいは緑茶製
造過程の色素成分の研究を長年
に亘って研究されております。

つきに研究室としての催しもの
としては三月初めに卒業生近
四年生と新四年生とでコンパを
することあります。筆者として
は農産製造学研究室の同窓会
を開いたらと考えており、御援
助いただきたいと思います。
(小宮 記)

支部だより

関東支部 四月二日の夕べ 地上二百米に集合

関東支部は、一、二年に一回の割合で、支部総会を開き、飲

今年も、四月三日に、新宿副都心、三井ビル五十四階(地上

当初計画時は、会員出席者七十人も延長しましたが、未だ時

クラス会だより

大卒卒業20周年で豊橋に集う



奈良先生を囲んで

昭和七回生は、本年をもって卒業二十周年となり、東西から

報告をします。七月八日、亀山ゴルフクラブにて行なわれ、三

三翠化学会の皆さんお元気ですか。私は貧乏暇なしで、教育

やスポーツ競技など、盛り沢山の行事にキャンパスを中心とし

わる立場にある人達にとってもいろいろと考えさせられる言葉



(福田実行委員長より優勝杯を受ける伊佐氏)

好企画続く 遊びに徹する東海支部

三翠化学会の皆さんお元気ですか。私は貧乏暇なしで、教育

DAVIS CAMPUS を中心に、休日を利用して一日しか行な

展示室内には、四月というのに温室栽培のものであろうか

アメリカ・ヨーロッパを訪ねて 赤木盛郎



カリフォルニア・ワインと筆者

めいてきているわが国の大学、研究所、企業などからの研究者

社会人1年生 新しい環境の中で思うこと

金の使途に悩む毎日

大25回卒 中世古 幸信

四月二日入社してから、ほとんどが残り、金を使い途に苦悩しております。

四月二日入社してから、ほとんどが残り、金を使い途に苦悩しております。このままでは社会人の厳しさを知らぬままではいられないので、思いながら生活しています。



なしろ今のところもらった給料の八割以上が貯蓄にまわっています。もし皆さんの中で

自己主張をいじめ

大27回卒 山北 和男

幹事の方から声がかかり、この欄に執筆できます事大変光栄に思います。

一日の日は午前七時二十分、七時二十五分が起床、洗面後、三十分から朝食、五十分までにタイムカードを押して五十分から朝礼それから仕事が始まります。

おかげで学生時代六十八歳だった体重は七月の中旬には七十二歳、また下旬には七十四歳と着実に数的に増加し続けています。

酒井君も私にライバル意識を燃やし、胃のあたりが、胸よりも前に出る体型になりつつあります。どうも精神的苦悩が食欲減退に結びつかない体質というのは損なものです。

いや決して多くない給料もその

生活の苦しい方がございましたら、ぜひ御一報下さい。安い御利息で御用立て致します。と看板でもあげようかと思つていくらいです。

現在、品質管理課に所属しており、製品の分析、チェックが主な仕事となっておりますが、油と微生物について私なりに検討していきたく、新入社員らしく陰でゴソゴソと、雑や語味についてさわってみたり、なめてみたりしている段階です。

か、やっている動作や労働時間は学生時代とさほど変わらないのに、今は金ももらえて学生時代は金を出さなければならなかったというのを考えると、学校の労働力を搾取しているところだろななどと考えるところなど一向にカシコクなっていないのです。



自分の主張を通すという事はとても疲れる事です。仕事が終り帰宅すると、快い疲労が体を包み込み、それと同時に満足感が溢れて来ます。

いい加減に生きる事に、いや気がさして来たのです。もっと自分らしく、堂々と、赤裸々に生きていこうと感していたのです。

醸金者名簿

昭和54年 1月8日～8月17日

- (専一) 粥見、庄山、西村、東藤田、別府、山田、渡辺、
- (専二) 岸本、佐々木、藤枝、前田(尚)、松村、若林、山本、
- (専三) 尾之内、大窪、奥田、小笠、草深、小林、洲崎、田中、
- 高野、中村、丸山、宮本、川村、
- (大1) 高岡
- (大2) 足立、木根、後藤、近藤、桑原、筒井、中川、
- (大3) 大河内、佐野、辻村、中西、松葉、
- (大4) 黒田、信貴、辻藤田、細見、和田(通)、和田(不)、
- (大5) 岡出、沢田、野瀬、
- 山口、山元、
- (大6) 服部(照)、
- (大7) 須谷、畑下、半根、平塚、小野(秀)、米山、
- (大8) 上井、加藤(公)、木村、桑原、島田、原、林田、藤本、
- 森岡、吉村、
- (大9) 今井、竹尾、
- (大10) 板倉、小出、
- (大11) 今井、
- (大12) 相松、伊藤、河村、
- 西宗、村木、
- (大13) 広部、谷、
- (大14) 青木、井口、市原、
- 岩崎、宇野、岡崎、奥野(武)、
- 奥野(啓)、川北、清水、田尻、
- 館、玉置、水野、村田、
- (大15) 小島、鈴木、田中、
- 長野、
- (大21) 飯沼、

鉄道模型を組み立てて 子供と共に楽しむ

大6回卒 神田 孝昭

昨年末に大阪から敦賀に通勤してきては半年以上過ぎた。小生の出身地たる弥富にもたいぶ近くなった。毎日多忙で一日があつというまにすぎさつていく。それでも休日になると自分

が楽しみたいことが多くあつて、楽しむ時間が不足する。ここ五、六年前から鉄道模型を遊ぶようになった。休日になるとH0ゲージ(レールの幅が十六、五mmで20ポルト位の直流で走る鉄道模型のこと)の鉄道模型をたたく自動信号機、自動路切や自動ポイントとレールをつなぎ、それに電源として直流トランスとつなぐと模型の電車や電気機関車、蒸気機関車(H0ゲージ)の蒸気機関車は石炭では走りません。石炭で走る模型の蒸気機関車はライブスチームといつてH0ゲージのものよりずっと大きい)を走らせることができる。

二人の子供と共にこのようにして組み立てたレールに電車や電気機関車、蒸気機関車を走らせて楽しむことが多い。

- (大22) 秋山、浅野、坂、古川、
 - (大23) 森、
 - (大24) 古山、
 - (大25) 石田、塚本、中世古、
 - 武藤、
 - (26) 井土、菅原、松尾、水谷、吉岡、
 - (大17) 秋山、榎本、佐藤、長野間、祖父江、
 - (専2) 中川(紀)、
 - (19) 竹田、
- 尚、ご送金は振替にてお願い致します。名古屋三二二五・三翠化学基金事業会
- 訃報 白上暢彦氏(大17、四十四年三月卒)は、昭和五十四年八月二十日逝去されました。ここに慎んで哀悼をお祈りいたします。

今私は

生活科学コースの教育現場で学生を指導

大四回卒 澤田 寿々太郎

今から十七年前、大阪郊外に新設された短期大学の家政学科に赴任した私は、食物栄養コースのスタッフとして栄養士養成にたずさわって参りました。ところが数年前から方向転換をして生活科学コースを担当することになりました。私は以前から家政学の方向に幾つかの疑問を持っており、この機会に思い切ったコースの体質改善を試みることにし、次のような見解をまとめました。

かつての家政学は古くからの伝統や習慣の中であつて、不合理的で非能率的な家事作業を強いられて来た主婦の状況に視点をむけ、台所に閉じこめられていた主婦を開放し、豊かで快適な

ているのはEF-70やEF-81である。模型にもEF-70やEF-81がある。EF-70はフルトレインたる20系の客車をつないで走らせると楽しい。実物では15輻編成であるが、模型では8輻編成である。模型にも「あさかぜ」や「つるぎ」つるぎは北陸線のフルトレイン、あさかぜは東海道、山陽線のフルトレインのテールマークをつけ、電燈を消して走らせるとまるで夜行寝台特急の如くである。その他EF-58やEF-57やEF-66も走らせると結構面白い。

しかしH0ゲージでは物足りない面もあるのではいかはライブスチームで石炭をたいて走らせてみたいと考える。このEF-66も走らせると結構面白い。

また他に書くこともありますが以上でもって終りとします。

今その詳細を申し上げるスペースはありませんが、例えば生活文化史等を準備し、歴史における現代を理解させる一方、現代の家庭生活をとりまく環境、生活構造、更に行動科学的側面からの人間を理解させた上で、こゝにのちの家庭と家族が置かれている状況を認識させます。そして家庭は現代社会の中にあるので、どのような機能を果たすべきかを学生一人一人が模索することが出来るようなカリキュラムを編成しています。

かつて栄養士養成コースのスタッフとして、みずからの専門を生かすことに支障はなかった私でしたが、このような新しいコースのチーフとなると、自分の専門から次第に離れていきなす。そのことに一抹の淋しさを感じないで済ませたい。しかし数年間の試行錯誤から生み出されたカリキュラムのもとで、見えるように生き生きと学ぶ学生の姿を見て大きな喜びを感じている今日この頃です。